



MAJOR ORCHESTRA
LIBRARIANS' ASSOCIATION

オーケストラライブラリアン 業務の紹介

The Orchestra Librarian: A Career Introduction

The Orchestra Librarian A Career Introduction

オーケストラ・ライブラリアン業務の紹介

オーケストラ・ライブラリアンは、パフォーマンス・ライブラリー（演奏関連のライブラリー）における音楽のスペシャリストである。パフォーマンス・ライブラリーは、多くの様式、媒体、時代の音楽を含むので、オーケストラ・ライブラリアンはその言葉が持つ最も幅広い意味上での音楽家でなければならない。オーケストラ・ライブラリアンは、オーケストラの楽譜のコレクションを管理、ケアするプロであり、演奏とライブラリーの特殊な技能における、能力と訓練が必須である。

パフォーマンス・ライブラリアンの役割

パフォーマンス・ライブラリーは、オーケストラ全てにとって、組織が活動する上での中枢である。従来のパフォーマンス・ライブラリアンの活動は次の用例を含む：コレクションをまとめて維持すること、オーケストラの奏者とスタッフへの対応、調査や出典に関する問合せへの回答、出版物、オーディオ/ビデオ・マテリアルを推薦する、等。その上、パフォーマンス・ライブラリアンは、マテリアルの保存やその方法、アーカイブ管理、音源の収集、情報構成や検索の自動化されたシステムなど、ライブラリーを管理するための新しい方法や戦略にもますます関与している。

これらの主要な点以外にもパフォーマンス・ライブラリアンの活動は組織、すなわち交響楽団、オペラ・オーケストラ、バレエ・オーケストラ、アカデミック組織の本質を反映している。

シンフォニー・オーケストラ・ライブラリアン

オーケストラ・ライブラリアンはオーケストラの演奏に必要な全ての楽譜を系統立て、準備する。出版社、楽譜販売店からの入手に加え、オーケストラの楽譜は多様なソースから入手される。多数の楽譜はまだ、著作権法で保護されており、レンタル合意によりのみ入手することができる。

運営上の職責

オーケストラ・ライブラリアンは演奏会の企画の補佐、演奏会の制作の構成、時間、楽器編成、奏者の必要性等、音楽上での詳細を通知する。オーケストラ・ライブラリアンが、演奏会の為にプログラムやプログラム解説を書き、または編集することもある。多くのオーケストラでは、主任ライブラリアンが部署の運営を行い、予算を定める。

プログラムの編成とスコアの準備

各演奏会に先立ち、企画された演目についての情報はライブラリーから発信される。音楽監督、客演指揮者、プログラムノート執筆者、マネージャー、ソリスト、オーケストラの奏者は全て、演奏会の為の準備としてスコアを勉強、または精読する必要がある。

楽譜の準備

オーケストラ・ライブラリアンは、正確な楽譜の準備の為、指揮者、ソリストと特定の必要事項について協力する。ボーイング、リハーサル番号、小節番号は、指揮者のスコアと奏者のパート譜間で調整されなければならない。テンポ、強弱、アーティキュレーション、差し込み、カット、歌手の好む音域への移調の編集も必要である。出版された版の誤りまたは不一致においては更なる訂正/校正が必要となることもある。

特定の作品においては、ソース、版、特別な版、調性を定め、確認する為、オーケストラ・ライブラリアンは他の機関やオーケストラとも協力しなければならないこともある。これらの作業を達成した後、オーケストラ・ライブラリアンは奏者のために演奏会用フォルダー一式を整えることができる。この作業は奏者が練習できるように、演奏会シリーズから十分余裕を持って完了されているべきである。注：客演指揮者が同じ曲をいくつかのオーケストラと演奏する場合、各オーケストラのライブラリアンは同じパート譜を望む場合がある。

ライブラリアンによっては、特別な編曲や楽器編成または原本のコピーを用意しなければならない。ライブラリー・スタッフは、通常、委嘱作品の楽譜の作成や整理に係わっている。

コンピューターの使用

オーケストラ・ライブラリアンとして成功する上での音楽の専門知識を必要とするほか、自動データベース、調査手段、楽譜表記法の出現により、ライブラリアンのコンピューターへの依存が増した。多くのオーケストラ・ライブラリアンは、作曲家、楽器編成、標準的な管弦楽作品の演奏歴などを総括的なコンピューター・データベースに頼っている。他のライブラリアンは独自の組織に関するシステムを作成した。

インターネットはオーケストラ・ライブラリアンにとって、情報、特に調査や参照用マテリアルに関し、アクセスを容易にしている。Eメールも、プロのライブラリアン間のコミュニケーションを増し、ネットワーク、情報交換など、卓越した機会を与えている。

多くのオーケストラ・ライブラリアンは間際での音楽的な変更、例えば移調や修正に対応しなければならないので、コンピュータ化した記譜を使用するのが大いに役立つ。これらのプログラムは、デジタル情報を処理し、ピアノの鍵盤 (midi) でインプットされ、単旋律のマニュスクリプト、またはフル・オーケストラ・スコアのように複雑なものも作成できる。一旦楽譜がデジタル・フォーマットに入力されれば、ライブラリアンは必要に応じて変更ができる。

専門分野でのキャリアの機会

専門的なキャリアの機会は交響楽団以外にも組織内でも得ることができる。そのいくつかは、オペラやバレエ団、ミリタリー・バンド又は他のプロの吹奏楽団、室内楽アンサンブル、アカデミック・ライブラリー、音楽出版社、楽譜販売店、財団、映像、テレビ、録音スタジオ、そして指揮者、アレンジャー、ソリスト専属の個人のライブラリアンとしても、この機会を得ることができる。

オペラ・ライブラリアン

オペラ・ライブラリアンは数多くのユニークな課題に直面する。この仕事の本質は、ライブラリアンが、カットの追加や削除、二次資料からの抜粋の挿入、特定の歌手にとってより適切な調性への移調等、持続的な変化に柔軟に対応し、適応できることが求められる。公演の何ヶ月も前からスコアやパート譜の適切でタイムリーな準備を確実にするため、ライブラリアンは、早い段階で指揮者、マネジメント、ライブラリアン、歌手や歌手のマネジメント会社との協力を求められる。

また、関連情報（そしてその後の変更）を、ステージマネージャー、舞台監督、セット・照明デザイナー、伴奏者、コーチ、プロンプター、バックステージ指揮者、ソリスト、バレエ、合唱メンバー等、オペラプロダクションに係わっている全ての人に発送するのもオペラ・ライブラリアンの義務である。

オペラ・ライブラリアンは広範囲にわたるヴォーカル譜のコレクション、購入、ケア、マテリアルの貸し出しを始め、購入不可能なヴォーカル譜の作成をしなければならない。このような特別なスコアは、新たな解釈、音訳が描かれている場合や、多くのマテリアル源からの編集物である場合がある。特定の状況では、オペラ・ライブラリアンは古いマテリアル、特に貴重で由緒ある、または他に替えられないマーキング（演奏の際の書き込み）のマテリアルを保存しなければならない。

バレエ・ライブラリアン

バレエ・ライブラリアンは、楽譜が振付師の広範囲な改定、適応を前提としているので、バレエ分野固有の更なる責任がある。舞踊の振り付けは、しばしば楽譜上でカットやセクエンスの変更を余儀なくさせる。したがってライブラリアンは、調性、転調、音楽の変化を意識し、論理的なカットができなければならない。ライブラリアンは、振付師やバレエ・プレゼンターがアレンジしたように、テープやピアノ版から音楽を編曲しなければならないときもある。

バレエ団で仕事をするライブラリアンは、標準的なバレエ・レパートリー、それらの作品の主な振付師を知っておくべきである。出版されている作品の標準的な改作や編曲もしばしばある。例えば「ロメオとジュリエット」というタイトルの作品がいくつかあるが、振付師によって曲のアレンジは異なる。

オペラとバレエ・ライブラリアンは他のオーケストラ・ライブラリアンの情報源となる。

バレエ・ライブラリアンは、オーケストラ・ライブラリアンの専門分野内であり、しばしば標準的なシンフォニック・レパートリー以外となる楽譜の所在、収集、準備に関し、助言、補助をする。

アカデミック・ライブラリアン

アカデミックな環境にあるパフォーマンス・ライブラリアンは、概してオーケストラ・ライブラリアンと同様の責務がある。しかしアカデミック・ライブラリアンは、オーケストラ、吹奏楽、ジャズ、室内楽アンサンブル等の多様なアンサンブルの楽譜を管理するほか、マスタークラスやレパートリー・クラスのための楽譜も提供する。

学術研究機関は、絶えず変化する人事、指揮者により、楽譜が随時書き込まれ、独特な課題がある。これは、アンサンブルには標準的なマーキングがないからである。アカデミック・ライブラリアンは、学生が個々のパート譜の練習、オーディション、スコアやオーディオレコーディングの勉強のためにライブラリーを訪れるので、パフォーマンス・ライブラリアンよりライブラリーへのアクセスをより容易にしなければならない。

吹奏楽・ライブラリアン

吹奏楽・ライブラリアンも、ボーイングの記入が不要であること以外はオーケストラのパフォーマンス・ライブラリアンとほとんど同様の責務がある。吹奏楽・ライブラリアンの仕事の範囲はもっぱらアンサンブルを行う会場次第である。一部のミリタリー・バンドは毎日5~6の式典で演奏し、その場に応じて異なる楽譜が必要となる。その他のプロの吹奏楽団はフォーマルな演奏会やコンサートツアーを行う。

その他の関連する機会

多くのミュージック・ライブラリアンは音楽学者、作曲家、評論家、演奏家であることから、彼らは指導、作曲、音楽に関して執筆することがある。パフォーマンス・ライブラリアンは、オーケストラ・スタッフ、研究員、インターン等から訓練の為にプログラムを企画するよう頼まれることもある。ライブラリー外での授業では、音楽書誌学、彼らの専門分野内でのその他の教科を教えることもある。またライブラリアンはゲスト・スピーカーや代表者とし組織団体のために様々なイベントで業務を担う。

世界の音楽司書職でさらに活動したいライブラリアンは書誌学、その他、学問的な作品を出版することもできる。そこには、新しい版の準備、既存の版の譜面の正誤表の作成なども含まれる。ライブラリアンは書物の批評や情報メモリー、コンピューター検索、カタログ作成、オーディオ/ビデオレコーディング、ライブラリアンの教育、保存、アーカイブ、ライブラリー運営、コンピューター・グラフィック、その他の技術開発等を扱い、地方や国の委員会で仕事をすることもある。

訓練の機会

オーケストラ司書職の訓練には、音楽と一般教養科目の全ての面において幅広く徹底的な教育が含まれる。この仕事は、正規の教育と交響楽団の組織での実践的な幅広い経験を必要とする。ほとんどのオーケストラ・ライブラリアンは音楽方面のバカロレア、その多くは更に大学院での研究、音楽や関連分野の学位を持っている。

1997年現在では、いかなる専門学校、音楽院、大学でのオーケストラ司書職の正規の教育課程はなかった。ほとんどの音楽学校、多くのライブラリー/情報科学学校は、オーケストラ司書職に適用できる多様な関連課程を提供している。最適な訓練の機会は、認可されている音楽・ライブラリーの学位が得られる教科課程と連携している主要なオーケストラ・ライブラリーで得ることができる。このような組織を持ったインターンシップは、学生に基本的なスキルを提供し、(機能している)パフォーマンス・ライブラリーの仕事のペースと組織的構造を認識させ、オーケストラ司書職の様々な面を含む価値ある経験の場を提供する。現場での仕事や経験にかわるものはない。多くのオーケストラ・ライブラリアンは学校のアンサンブル、地域のオーケストラ、または経験あるライブラリアンのアシスタントとして仕事をして訓練をスタートさせている。オーケストラ・ライブラリアンの技術を効果的に磨くには、見習い期間中、技術に富んだ先輩と仕事をするのが最も有益であり一般的である。

効果的なスキル

オーケストラ・ライブラリアンは、管弦楽のレパートリー、記譜様式、音部記号の読み方、移調、オーケストレーション、全ての楽器の演奏上の特徴に関する徹底した知識も要する。

楽譜や版に関して必要な情報は、あらゆる国で、あらゆる原語で書かれているので、ドイツ語、そして少なくとももう1ヶ国語ロマンス語(ラテン語)を知っていると、基本的な書誌学の研究やカタログ作成に役立つ。学生は、クラシックとポピュラー、両方の音楽の歴史や作品を知っていなければならない。オーケストラ・ライブラリアンは他の分野からの専門知識を生かすので、学生は一般教養科目の様々な分野から得るものが多い。

パフォーマンス・ライブラリーの運営には、系統立てて行う能力は欠かせない。成功するオーケストラ・ライブラリアンは、常に先行する速いペースの環境の中で仕事ができる能力を持つ。オーケストラ・ライブラリアンは、あらゆるレベルの演奏組織団体と日々係わるので、対人関係も優れていなければならない。

オーケストラ司書職の分野は比較的小規模で特定のものだけに効果を発揮する。この仕事は、系統立てて行う能力、知的で好奇心があり、自信がある人、アーティスト、音楽家、オーケストラの演奏会の演奏やプロダクションにおける管理者と直接係わることを望む人にとって魅力のある仕事である。

(訳：東京都交響楽団 糸永桂子)

オーケストラライブラリアン業務の紹介

The Orchestra Librarian: A Career Introduction

Major Orchestra Librarians' Association 編集委員会編
Major Orchestra Librarians' Association

1993年版

フィラデルフィア管弦楽団

Clinton F. Nieweg

サンフランシスコバレエ団

David Bartolotta

ヒューストン交響楽団

Peter Conover

トロント交響楽団

Gary Corrin

ナショナル交響楽団

Marcia Farabee

メトロポリタンオペラ

John Grande

フィラデルフィア管弦楽団

Robert M. Grossman

ミネソタ管弦楽団

Paul Gunther

St. Paul Chamber Orchestra

James Kortz

バルティモア交響楽団

Mary C. Plaine

メトロポリタンオペラ

Rosemary Summers

ニューヨークフィルハーモニック

Laurence Tarlow

サンフランシスコ交響楽団

John Van Winkle

2001年改訂版

サンフランシスコ交響楽団

John Campbell

New England Conservatory

Russ Girsberger

(ニューイングランド音楽院)

National Arts Center Orchestra

Margo Hodgson

Florida Philharmonic

Carol Lasley

The U.S. Army Field Band

Cathy Miller

ユタ交響楽団

Patrick Zwick

その他の出版物

MOLAの出版委員会はほかに、「MOLAとは何でしょう-The Major Orchestra Librarians' Associationへのガイド」と「楽譜用意のガイドライン」と題する冊子を編集しています。

MOLAに関する詳しい情報は、MOLAのホームページ www.mola-inc.org をご覧ください。

